

2020年3月期決算説明会

代表取締役社長
森 拓也

2020年6月2日

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々に
謹んでお悔やみ申し上げますとともに、罹患された方々には
心よりお見舞い申し上げます。
また、医療従事者をはじめとする感染拡大の抑制にご尽力されて
いる皆様に深く感謝申し上げます。

目次

1. 2020年3月期 決算概要	P. 2
2. 2021年3月期 業績予想	P. 13
3. 中期経営計画2019の進捗	P. 17
Appendix ご参考	P. 31

1. 2020年3月期 決算概要

2020年3月期 トピックス

建設業界は底堅く推移するもコロナ禍により先行きは不透明、防災・減災、国土強靱化対策は継続

- 2019年度建設投資額の見通しは、前年度比3.4%増の62兆9,400億円の見通しとなり、4期連続で増加
 - 国土強靱化に向け、インフラ老朽化対策などの公共投資は継続、NEXCO大規模更新事業の発注は工事規模の大型化が進む
 - 民間企業設備投資は、民間非住宅建築投資（11.8兆円）は横ばい、民間土木投資（5.8兆円）は10.7%増加する見通し
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により今後の発注が鈍化、施工体制の維持に各社注力
 - 景気的大幅悪化により民間企業設備投資は、設備投資計画の中止や延期が増加する見通し
 - 社会資本整備の担い手として、国、業界団体と足並みを揃え、感染防止に努めつつ事業継続が求められる

売上高は前年同期実績及び期初計画比で減少するも、各利益項目は期初計画より大きく改善、中計2019初年度目標達成

- 売上高は、土木事業は順調な進捗により増加するも、建築事業の当期受注予定案件の期ずれ等もあり、全体で期初予算より42億円減収
 - 期初計画比3.9%の減少、前年度比4.1%の減少
- 売上総利益率は、NEXCO案件の竣工による設計変更獲得や採算性の向上等により全体で2.2ポイントの改善
 - 期初計画：11.4%→2020.3期：13.6%
 - 土木事業の利益率は期初計画よりも1.9ポイント上昇し15.0%、建築事業の利益率は10.1%と1.0ポイント上昇
- 各利益項目が期初計画比で大きく改善し、当期純利益が32億14百万円となり、中計2019初年度目標達成
 - 期初計画比増加率：売上総利益+15.0%、営業利益+35.6%、経常利益+39.9%、当期純利益+46.1%

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の取り組み

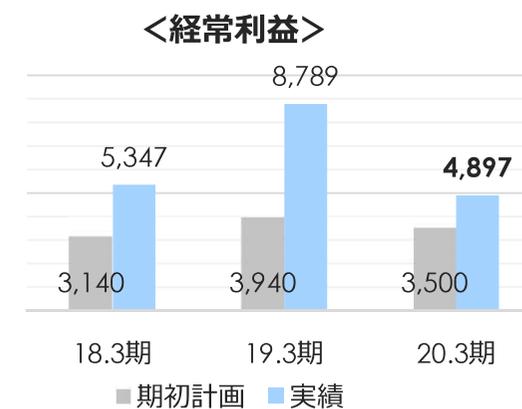
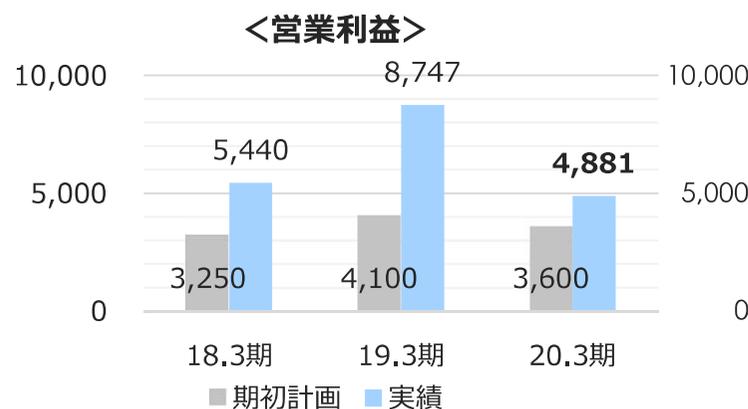
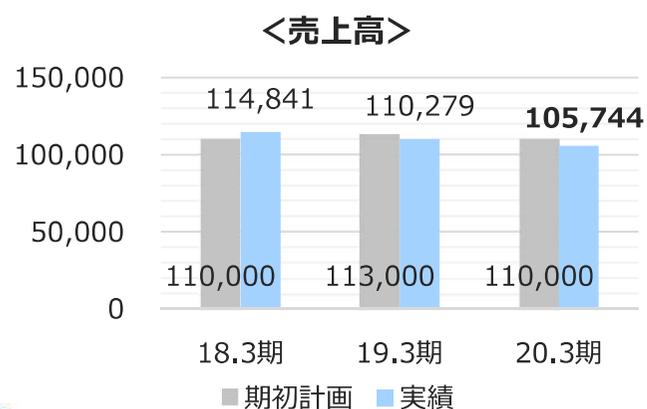
- 2020年4月に「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置
 - テレワーク、Web会議等による業務が急速に浸透し、間接部門の従来からの働き方が大きく変化
 - 「働き方の新しいスタイル」を検討することを目的として、働き方改革実行委員会の傘下に検討チームを組成
- 「新型コロナウイルス感染症の拡大防止対策ガイドライン」を策定
 - 警戒地域ごとに内勤、工事作業所に向けて出退勤や会議等の対策、体調不良者への対応等を定めた

業績サマリー

連結業績サマリー

(単位：百万円、%)

	2018.3期		2019.3期		2020.3期			コメント
	実績	前年比	実績	前年比	実績	前年比	期初計画比	
売上高	114,841	18.7	110,279	△4.0	105,744	△4.1	△3.9	建築事業の当期受注案件の期ずれ等により減少
売上総利益	13,819	20.6	18,059	30.7	14,377	△20.4	15.0	設計変更、原価改善の取組み等により向上
営業利益	5,440	47.6	8,747	60.8	4,881	△44.2	35.6	貸倒損失計上等があったものの売上利益の増加により増益
経常利益	5,347	54.8	8,789	64.4	4,897	△44.3	39.9	受取配当金及び物品売却益の増加
親会社株主に帰属する当期純利益	3,844	44.9	7,918	106.0	3,214	△59.4	46.1	期首計画から大きく改善
1株当たり年間配当金 (円)	18.0		32.0		20.0			配当については予定通り (特別配当12円含む)



利益増減分析（前年同期比）

経常利益増減分析

（単位：百万円）

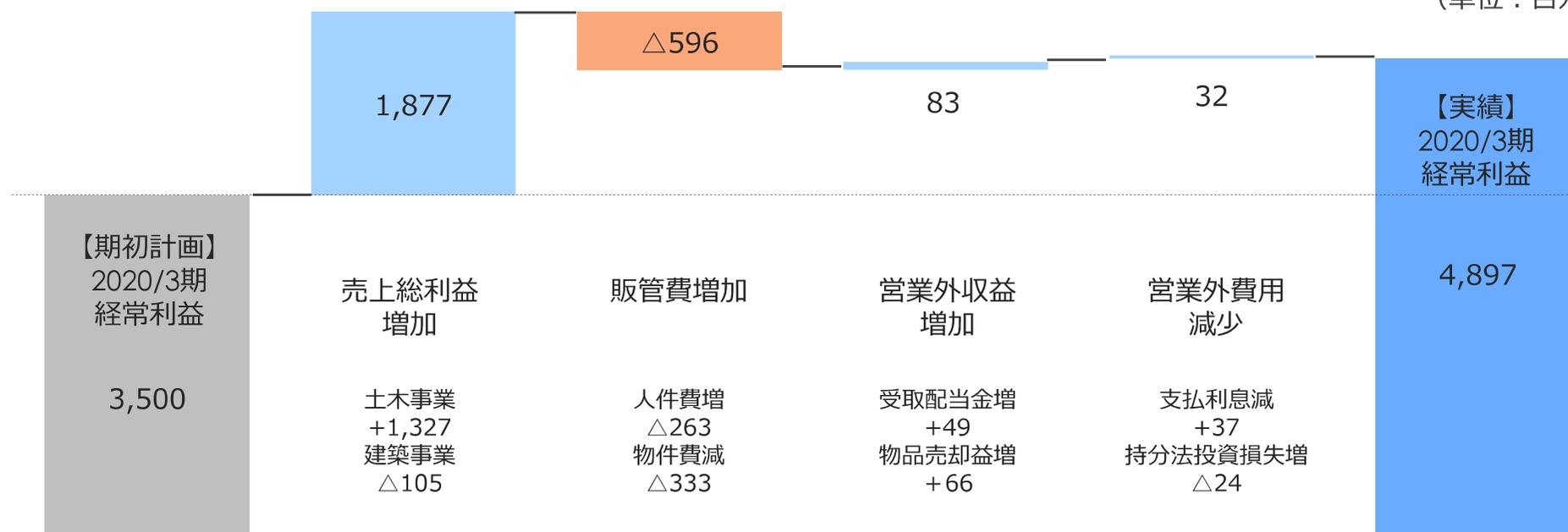


- 売上高は手持工事の期ずれ等により前期比4.1%減、売上総利益は多くの設計変更があった前期からの反動により前期比36億81百万円大幅減少し、利益率は16.4%から13.6%に低下
 - 土木事業は、前期からの繰越工事が多かったものの期ずれ等により売上高が減少、若干の設計変更の獲得等があるも売上総利益が減少
 - 建築事業は、売上高は減少したものの、売上総利益は工事採算が向上したこと等により増加
- 販管費が前期比1億84百万円増加
 - 主に工事債権回収不能による貸倒損失等の計上により物件費が増加
- 営業外収益が76百万円減少
 - 物品売却益の増加があるものの、前期計上した受取保険金は無し
- 営業外費用が49百万円減少
 - 支払利息の支出減により減少

利益増減分析（期初計画比）

経常利益増減分析

（単位：百万円）



- 売上高が土木の大型案件の進捗及び設計変更等により増加し、売上総利益が18億77百万円増加、売上総利益率が11.4%から13.6%に上昇
 - － 土木事業は、設計変更等により売上総利益が13億27百万円増加し、利益率が13.1%から15.0%に上昇
 - － 建築事業は、当期受注予定案件の期ずれ等により売上総利益が1億5百万円減少したものの、利益率が9.1%から10.1%に上昇
- 販管費が期初計画比5億96百万円増加
 - － 人財確保のための従業員の処遇改善等により人件費が増加、工事債権回収不能による貸倒損失等の計上により物件費が増加
- 営業外収益が期初計画比83百万円増加
 - － 主に投資有価証券の受取配当金の増加
- 営業外費用が期初計画比32百万円減少
 - － 主に支払手数料の減少

セグメント別業績

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)

		2018.3期	2019.3期	2020.3期		コメント
		実績	実績	実績	前年比	
売上高	土木事業	63,798	67,489	63,637	△5.7	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業は前期からの繰越工事が多かったものの工事進捗の期ずれ等により減少 ・建築事業は当期受注予定案件の期ずれ等により減少
	建築事業	48,770	40,592	39,431	△2.9	
	製造事業	1,638	1,551	1,875	20.9	
	その他兼業事業	634	644	799	24.0	
	合計	114,841	110,279	105,744	△4.1	
売上総利益	土木事業	9,178	14,118	9,527	△32.5	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業の売上総利益は、前期の設計変更等による利益増額からの反動で減少 ・建築事業の売上総利益は、売上高が減少するも手持工事の採算改善等により増加
	建築事業	4,361	3,298	3,994	21.1	
	製造事業	3	207	416	100.8	
	その他兼業事業	304	304	341	12.2	
	調整額	△28	131	97	△25.4	
	合計	13,819	18,059	14,377	△20.4	
受注高	土木事業	55,573	85,066	73,004	△14.2	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業は、大型案件の受注獲得等があるも、前期の反動により減少 ・建築事業は、予定していた大型案件の期ずれ等により減少
	建築事業	45,165	46,188	41,311	△10.6	
	製造事業	1,638	1,551	1,875	20.9	
	その他兼業事業	634	644	812	26.2	
	合計	103,012	133,451	117,003	△12.3	

土木事業

業界環境

- 2019年度公共事業関係費は、5兆9663億円と前年比15%増加、今期は、5兆9368億円と前年とほぼ同水準
 - 集中豪雨・地震等を踏まえた防災・減災や国土強靱化、さらに老朽化した社会インフラ対策の取り組み推進
- PC市場は、約3,000億円規模で継続、19年度実績3,209億円
 - 高速道路の大規模更新修繕を中心に維持修繕事業が拡大、新設橋梁は全体的には縮小傾向

業績推移



- 設計変更獲得、原価改善等があったものの、工事進捗の期ずれ等により売上高、売上総利益ともに減少
 - 期ずれ等により売上高が減少、設計変更や原価改善があったものの前期の反動により売上総利益も減少
- 受注高は、PC新設橋梁の大型案件や大規模更新の受注獲得等により、期初目標達成
 - 第三四半期に大型新設橋梁工事の受注を獲得、発注時期の期ずれ等があったものの期初目標を達成

大型受注案件（受注金額上位3件）

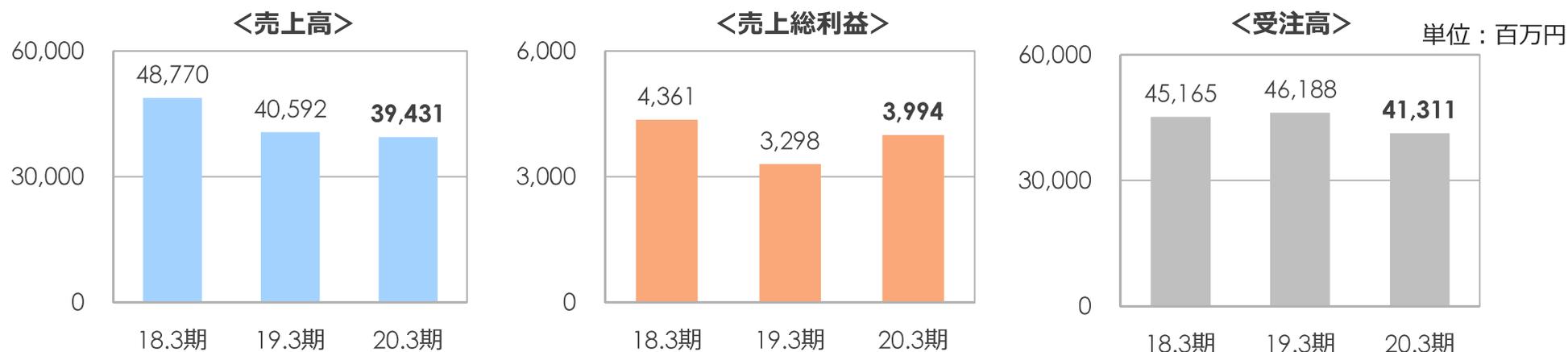
工事名	工事概要
新名神高速道路 城陽第二高架橋東(PC上部工)工事	大津～城陽間（城陽市）の新設橋梁 PC6径間連続プレキャストセグメント箱桁橋他4橋（上下線）
PC桁等大規模修繕工事(2019-3-松)	阪神高速道路の大規模修繕工事 橋梁補修工88径間 RC橋脚補修工18基他
中国自動車道(特定更新等)成羽川橋他2橋床版取替工事	東城IC～庄原IC間の成羽川橋他2橋の劣化したRC床版をプレキャストPC床版に取替る工事(約4,000m ²)

建築事業

業界環境

- 東京オリンピック・パラリンピックに続き、2025年大阪万博、総合型リゾート開発（IR）などのプロジェクトが計画
 - 労働力不足への対応としてPCa工法の需要は増加見込み
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、民間企業の設備投資意欲の減退などで建設需要の低下が懸念材料
 - 各社との受注競争の一層激化が予想される

業績推移



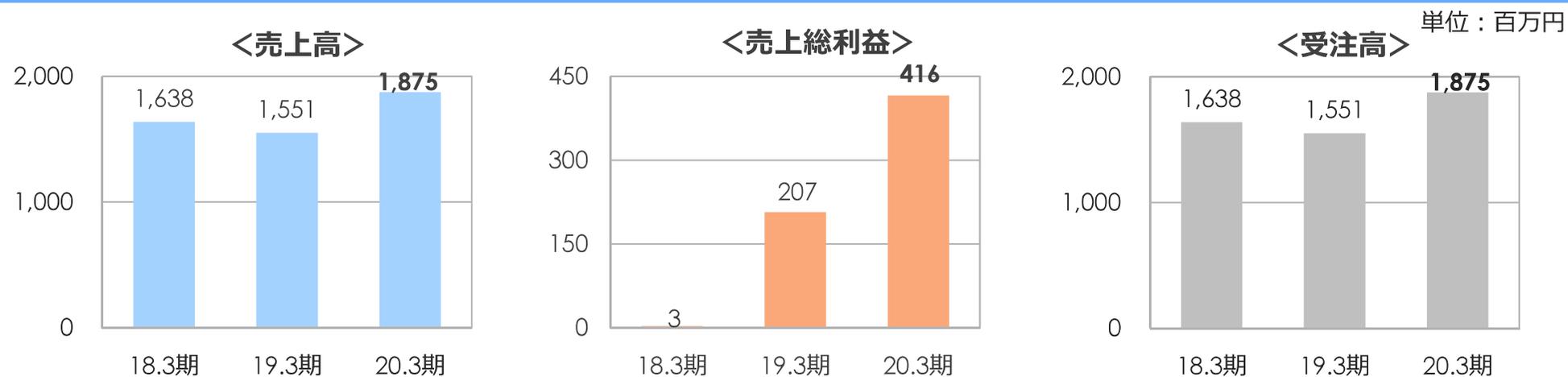
- 採算最重視による受注を進める施策が奏功し、売上高は減少したものの、売上総利益は増加
 - 売上高は前期からの大型工事が進捗したものの減少、売上総利益は工事採算の改善等により前年度より利益率向上（8.1%→10.1%）
- 同業他社との競争激化、発注者の事業計画変更等による大型受注予定案件の期ずれ等により前年実績及び期首計画から大きく未達
 - 前期実績比 △4,877百万円、期首計画比 △6,688百万円

大型受注案件（受注金額上位3件）

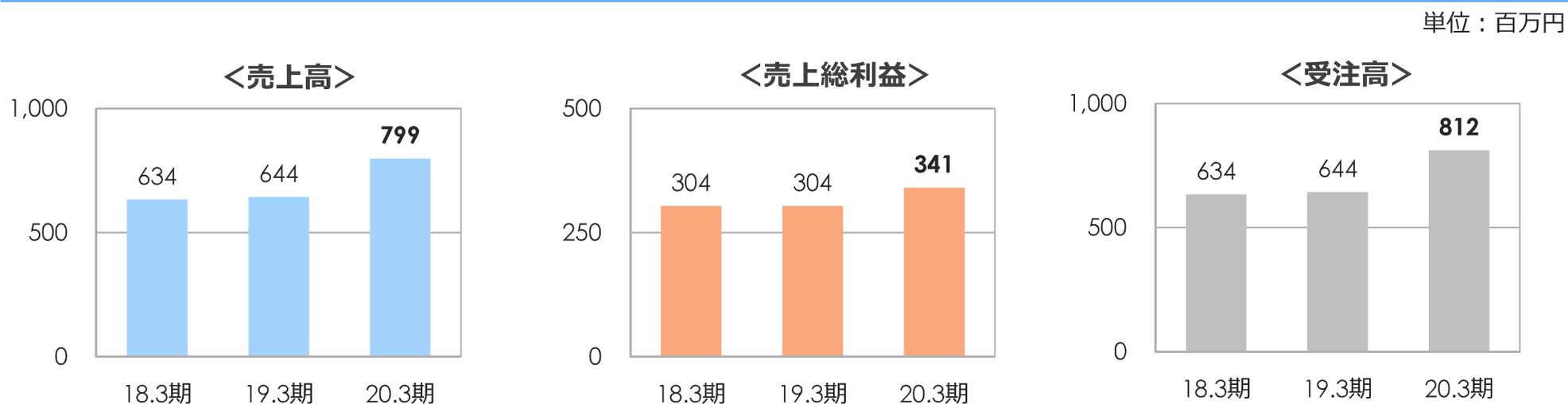
工事名	工事概要
某医療大学校舎新築工事	RC造（一部PC現場緊張）地下1F地上8F 建築面積3,548㎡ 工事床面積15,634㎡
共同住宅新築工事	RC造、地下1F 地上3F 敷地面積5,292㎡ 建築面積2,382㎡ 工事床面積6,733㎡
某ホテル施設新築工事	S造、地下1F 地上17F 塔屋1F 敷地面積3,133㎡ 建築面積1,624㎡ 工事床面積10,186㎡

製造事業及びその他兼業事業

製造事業 - 業績推移



その他兼業事業 - 業績推移



貸借対照表

連結貸借対照表の主な項目

(単位：百万円)

	2018.3期 実績	2019.3期 実績	2020.3期 実績	コメント
資産合計	83,296	90,196	88,282	
流動資産	65,865	69,796	67,860	・工事竣工に伴う入金等により現金預金が682百万円増加
現金預金	12,440	14,802	15,484	・工事債権の入金により、受取手形・完成工事未収入金等が2,555百万円、電子記録債権が914百万円それぞれ減少
受取手形・完成工事未収金等	44,749	47,560	44,090	
固定資産	17,430	20,400	20,421	・建物・構築物、工場用機械、工場用運搬具等の新規購入等により有形固定資産が418百万円増加
有形固定資産	12,073	13,394	13,813	
無形固定資産	196	176	156	
投資その他の資産	5,161	6,828	6,451	・退職給付に係る資産が381百万円減少
負債合計	54,980	54,755	51,549	・工事進捗に伴う買掛債務の計上により、支払手形・工事未払金等が853百万円、電子記録債務が832百万円それぞれ増加
流動負債	44,742	44,143	44,376	
固定負債	10,237	10,611	7,172	・ワンイヤールールにより長期借入金3,500百万円を固定負債から流動負債に組替え
純資産合計	28,316	35,441	36,732	・親会社株主に帰属する当期純利益3,214百万円を計上、配当金1,516百万円を支出
株主資本	26,582	33,402	34,831	・役員報酬BIP信託による自己株式301百万円取得
その他包括利益累計額	1,733	2,038	1,901	・退職給付に係る調整累計額が202百万円減少
負債純資産合計	83,296	90,196	88,282	

キャッシュ・フロー

連結キャッシュ・フローの主な項目

(単位：百万円)

	2018.3期	2019.3期	2020.3期	コメント
	実績	実績	実績	
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,049	7,170	4,630	
税金等調整前当期純利益	5,197	8,831	4,861	
減価償却費	667	768	719	
退職給付に係る資産の増減	△141	△20	26	
退職給付に係る負債の増減	237	192	86	
工事損失引当金増減	744	△776	△86	・営業収益の積上げ
売上債権の増減	△6,606	△2,858	3,483	・工事代金の入金による売上債権の減少
たな卸資産の増減	△315	404	△9	・法人税等支払額の増加
仕入債務の増減	△1,028	△1,366	1,652	
未成工事受入金の増減	△248	△354	672	
その他営業活動フロー	△580	3,920	△3,717	
法人税等支払額	△975	△1,570	△3,058	
投資活動によるキャッシュ・フロー	△535	△1,030	△2,016	
有形固定資産取得	△581	△1,228	△2,062	・建物・構築物、工事用機械更新等による有形固定資産の取得
その他投資活動フロー	45	197	45	
財務活動によるキャッシュ・フロー	977	△3,774	△1,932	
短期借入金純増減	1,728	△2,587	39	
長期借入れによる収入	—	300	—	
リース債務返済による支出	△83	△66	△44	・役員報酬BIP信託による自己株式取得
自己株式の取得による支出	△0	△0	△295	・増配により配当金の支払額が増加
配当金支払額	△568	△853	△1,516	
その他財務活動フロー	△97	△567	△113	
現金及び現金同等物期末残高	12,440	14,802	15,484	

2. 2021年3月期 業績予想

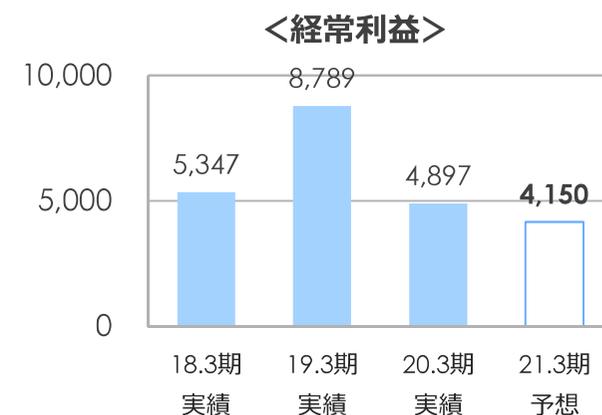
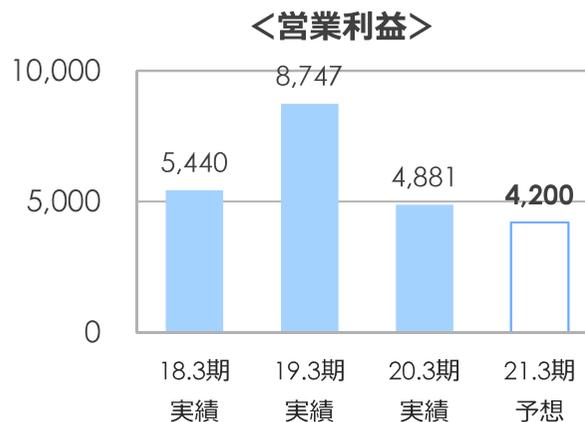
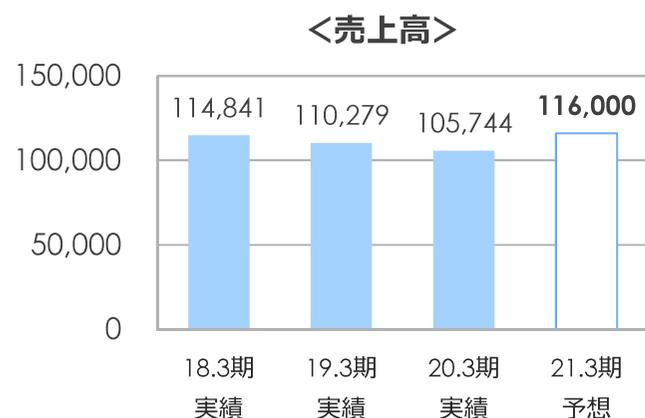
業績予想

連結業績予想

(単位：百万円、%)

	2019.3期		2020.3期		2021.3期		コメント
	実績	前年比	実績	前年比	予想	前年比	
売上高	110,279	△4.0	105,744	△4.1	116,000	9.7	土木・建築事業とも増収
売上総利益	18,059	30.7	14,377	△20.4	13,600	△5.4	土木事業の工事採算を保守的に見込む
営業利益	8,747	60.8	4,881	△44.2	4,200	△14.0	売上総利益の減少
経常利益	8,789	64.4	4,897	△44.3	4,150	△15.3	
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,918	106.0	3,214	△59.4	2,800	△12.9	
1株当たり年間配当金 (円)	32.0		20.0		20.0		

※現時点では、新型コロナウイルス感染症拡大による影響を見通すことが困難であるため、業績予想には影響額を織り込んでおりません。今後、業績予想の修正が必要となった場合には速やかにお知らせいたします。



セグメント別業績予想

セグメント別売上高・売上総利益・受注高

(単位：百万円、%)

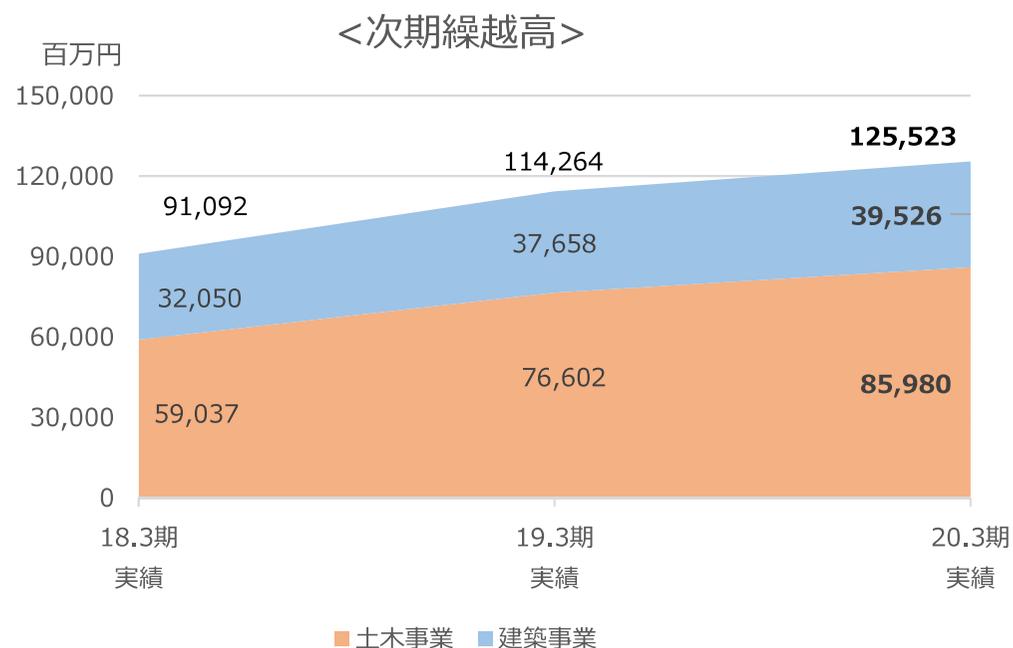
		2019.3期	2020.3期	2021.3期		コメント
		実績	実績	予想	前年比	
売上高	土木事業	67,489	63,637	67,700	6.4	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業の前期からの繰越工事増加 ・建築事業の当期受注案件の増加
	建築事業	40,592	39,431	45,700	15.9	
	製造事業	1,551	1,875	1,700	△9.4	
	その他兼業事業	644	799	900	12.5	
	合計	110,279	105,744	116,000	9.7	
売上総利益	土木事業	14,118	9,527	9,000	△5.5	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業は、大規模更新事業の工事採算を固めに見立て ・建築事業は、前期からの繰越工事及び当期受注案件で増益を予想
	建築事業	3,298	3,994	4,300	7.6	
	製造事業	207	416	100	△76.0	
	その他兼業事業	304	341	200	△41.4	
	調整額	131	97	-	-	
	合計	18,059	14,377	13,600	△5.4	
受注高	土木事業	85,066	73,004	70,900	△2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・建築事業で受注強化策として早期に案件確保を計画
	建築事業	46,188	41,311	49,500	19.8	
	製造事業	1,551	1,875	1,700	△9.4	
	その他兼業事業	644	812	900	10.7	
	合計	133,451	117,003	123,000	5.1	

セグメント別次期繰越高

セグメント別次期繰越高

(単位：百万円、%)

	2018.3期	2019.3期	2020.3期		コメント
	実績	実績	実績	前年比	
土木事業	59,037	76,602	85,980	12.2	<ul style="list-style-type: none"> ・土木事業の受注高が期初計画を上回る ・建築事業は受注の期ずれ影響があるものの、2019.3月期とほぼ同水準
建築事業	32,050	37,658	39,526	5.0	
製造事業	-	-	-	-	
その他兼業事業	4	3	16	327.6	
合計	91,092	114,264	125,523	9.9	



3. 中期経営計画2019の進捗

中期経営計画2019の進捗

2020.3期実績と中計数値目標との対比

(単位：百万円)

		2020.3期 中計目標	2020.3期 実績	2020.3期と中計目標 との差額		達成率		
受注	土木事業	62,800	73,004	10,204		116.2%		
	建築事業	48,000	41,311	△ 6,688		86.1%		
	製造事業	1,500	1,875	375		125.0%		
	兼業事業	700	812	112		116.1%		
	合計	113,000	117,003	4,003		103.5%		
売上高	土木事業	62,800	63,637	837		101.3%		
	建築事業	45,000	39,431	△ 5,568		87.6%		
	製造事業	1,500	1,875	375		125.0%		
	兼業事業	700	799	99		114.1%		
	合計	110,000	105,744	△ 4,255		96.1%		
売上総利益	土木事業	13.1%	8,200	15.6%	9,938	2.5%	1,738	121.2%
	建築事業	9.1%	4,100	9.9%	3,916	0.8%	△ 184	95.5%
	製造事業	6.7%	100	11.3%	211	4.6%	111	211.9%
	兼業事業	14.3%	100	39.0%	311	24.7%	211	311.6%
	合計	11.4%	12,500	13.6%	14,377	2.2%	1,877	115.0%
販売費及び一般管理費		8.1%	8,900	9.0%	9,496	0.9%	596	106.7%
営業利益		3.3%	3,600	4.6%	4,881	1.3%	1,281	135.6%
経常利益		3.2%	3,500	4.6%	4,897	1.4%	1,397	139.9%
当期純利益		2.0%	2,200	3.0%	3,214	1.0%	1,014	146.1%

中期経営計画2019の進捗

2021.3期業績予想の中計数値目標との対比

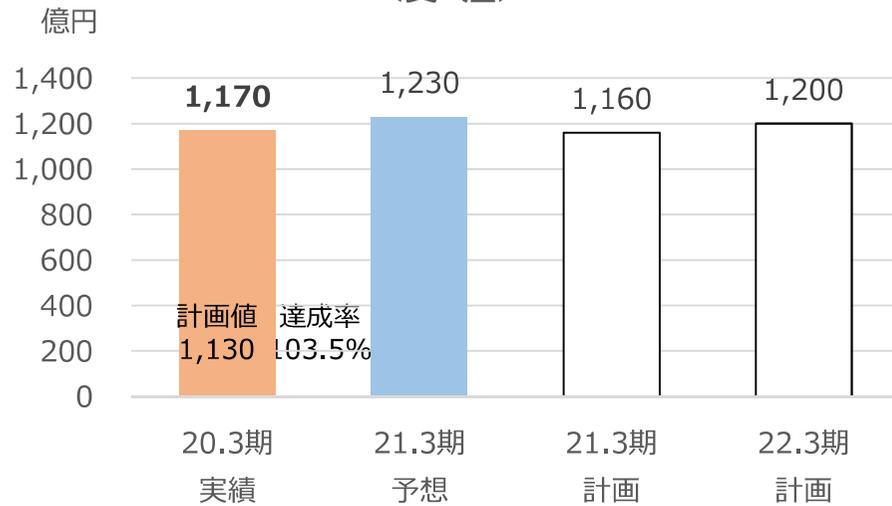
(単位：百万円)

		2021.3期 予想	2021.3期 中計目標	2021.3期と中計目標 との差額		2022.3期 中計目標			
受注	土木事業	70,900	64,900	6,000		68,200			
	建築事業	49,500	48,500	1,000		49,000			
	製造事業	1,700	1,900	△ 200		2,000			
	兼業事業	900	700	200		800			
	合計	123,000	116,000	7,000		120,000			
売上高	土木事業	67,700	63,600	4,100		66,800			
	建築事業	45,700	47,900	△ 2,200		48,500			
	製造事業	1,700	1,800	△ 100		1,900			
	兼業事業	900	700	200		800			
	合計	116,000	114,000	2,000		118,000			
売上総利益	土木事業	13.3%	9,000	13.4%	8,500	-0.1%	500	13.5%	9,030
	建築事業	9.4%	4,300	9.1%	4,340	0.3%	△ 40	9.6%	4,680
	製造事業	5.9%	100	8.9%	160	-3.0%	△ 60	9.5%	180
	兼業事業	22.2%	200	14.3%	100	7.9%	100	13.8%	110
	合計	11.7%	13,600	11.5%	13,100	0.2%	500	11.9%	14,000
販売費及び一般管理費		8.1%	9,400	7.9%	9,000	0.2%	400	7.7%	9,100
営業利益		3.6%	4,200	3.6%	4,100	0.0%	100	4.2%	4,900
経常利益		3.6%	4,150	3.6%	4,100	0.0%	50	4.1%	4,800
当期純利益		2.4%	2,800	2.5%	2,800	-0.1%	0	2.9%	3,400

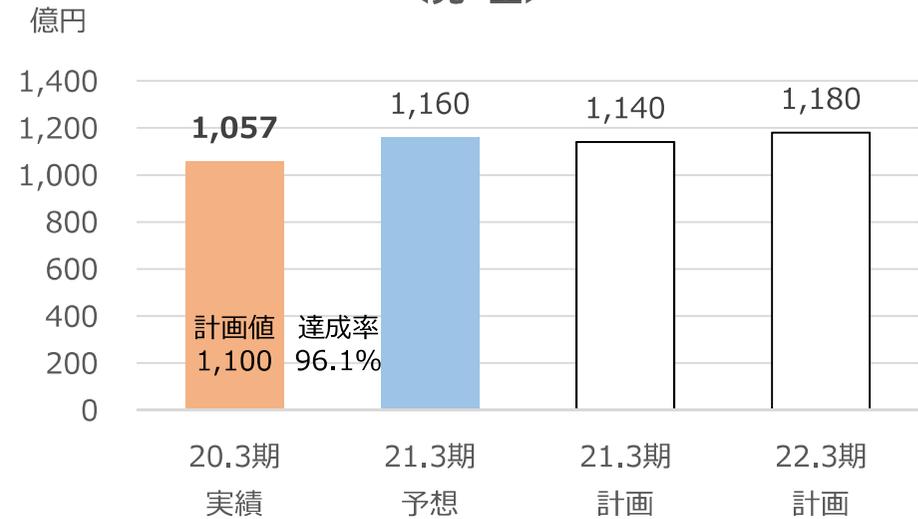
中期経営計画2019の進捗



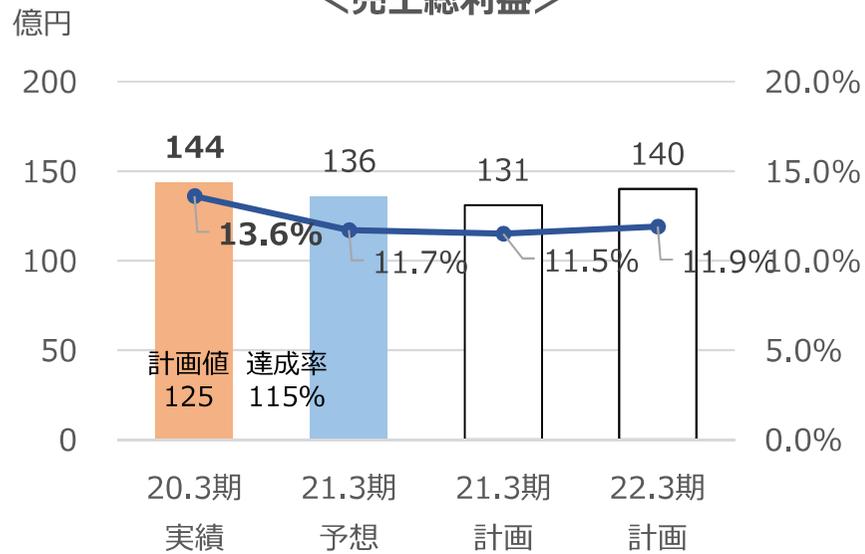
<受注>



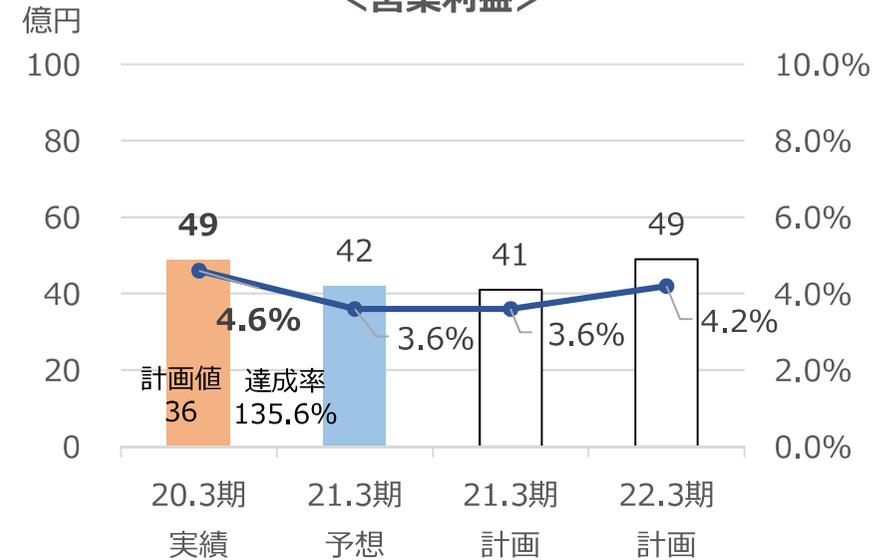
<売上>



<売上総利益>



<営業利益>



中期経営計画2019の進捗

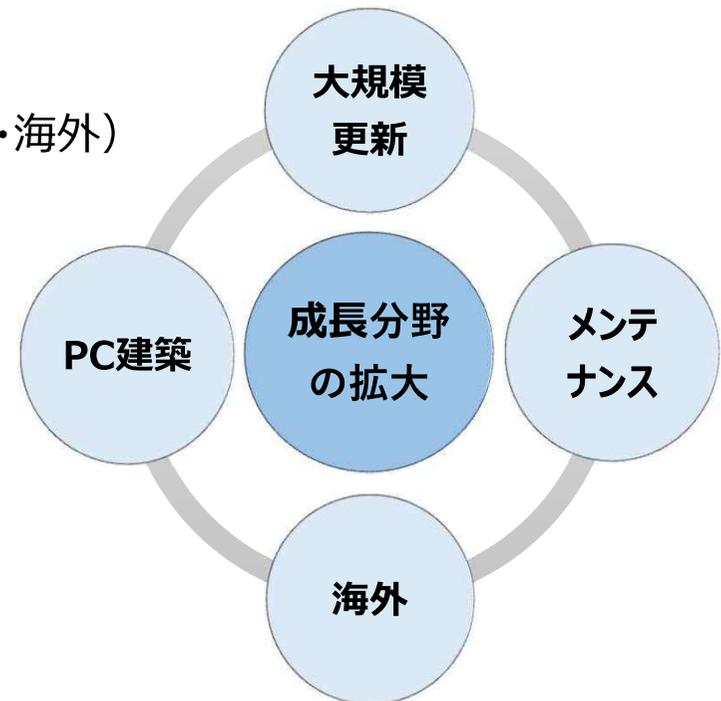
中期経営計画2019の基本方針

テーマ

さらなる収益基盤の強化と変革による成長分野の拡大

基本方針

- 「安全」・「品質」・「CSR」の徹底で、社会より高い信頼と評価を得る
- 省人・省力化施工の開発と改善を推進し生産性を向上させ、収益基盤を強化する
- 成長分野（大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外）への取組みを強化し、事業領域を拡大する
- 多様な人財の確保・育成を行い職場環境を活性化し、各人の能力向上を図る
- 働き方改革を加速させるとともに、IoT・ICTを最大限活用し業務効率を高める
- 技術開発・人財・設備への投資を充実させ、他社との差別化を図る
- 他業種との協力、協業を推進し、建設周辺事業での収益源の多様化を進める



事業別戦略の進捗状況

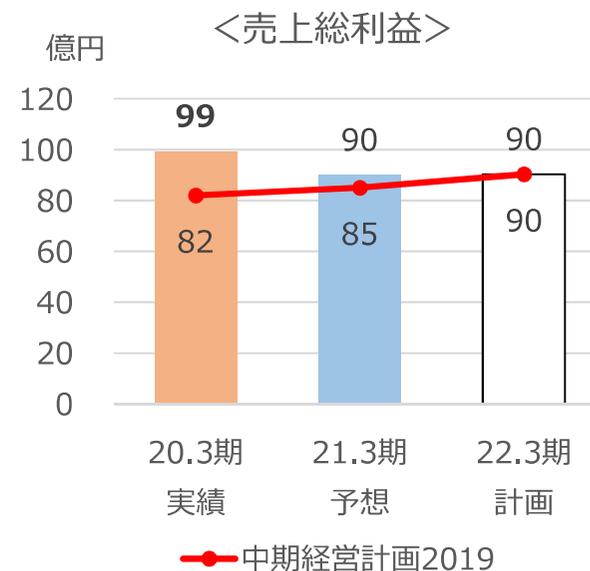
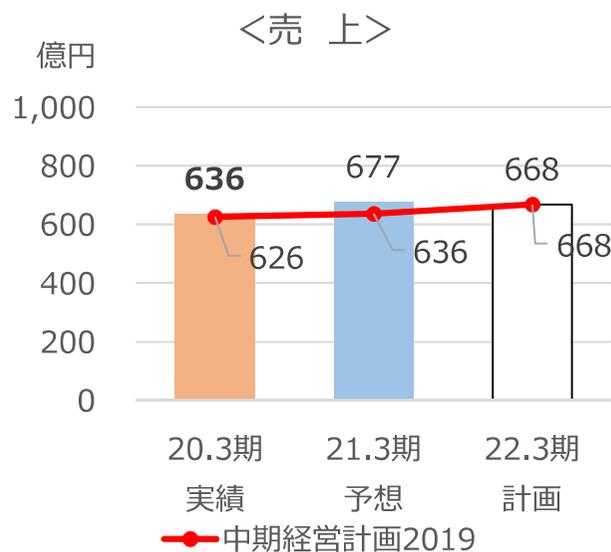
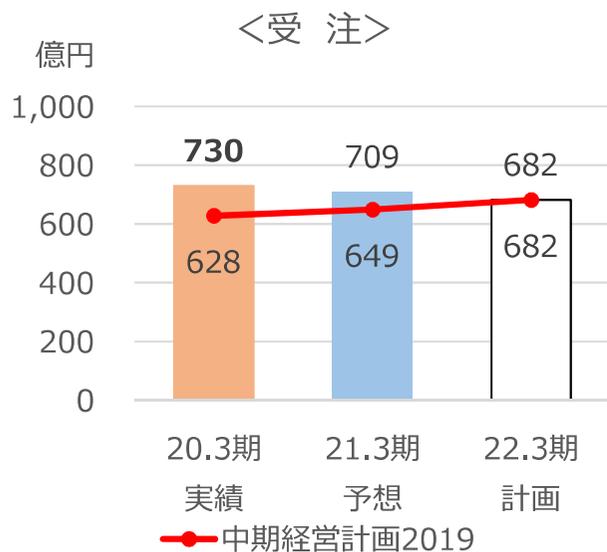
土木事業

事業方針

大規模更新・修繕工事を新設工事と並ぶ主力事業として発展・成長させる

進捗状況

- 大規模更新・メンテナンス分野において多様化する工事内容への体制強化に努める
- 大規模更新・修繕工事で受注、売上とも目標数値を上回る
- 工事分野間でのローテーションが進み、大規模更新・修繕工事の経験者率がアップ
- 工事の生産性と利益率を向上させる施策を立案し実行する
- IoTの活用により要員配置の適正化や遠隔作業支援など効率的な現場管理を実現
- プレキャストPC床版の自動製図システムの開発に着手
- 新設PC橋梁の受注に注力し、PC業界におけるトップランナーの地位を確固たるものにする
- NEXCO新設大型PC橋梁や北陸新幹線関連の受注などにより、トップシェアを獲得



事業別戦略の進捗状況

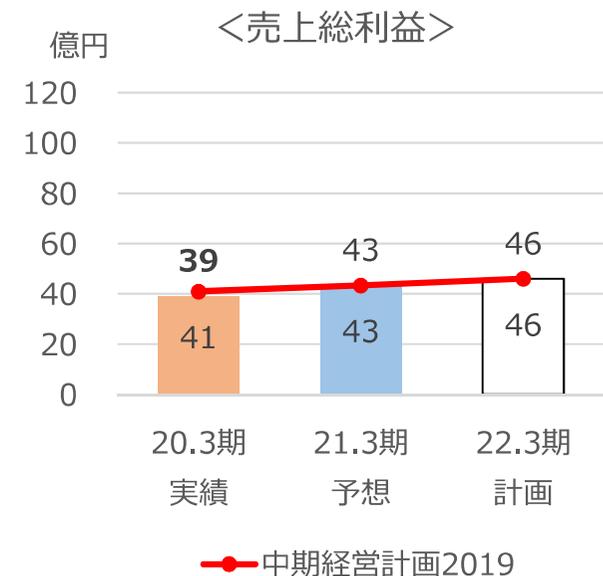
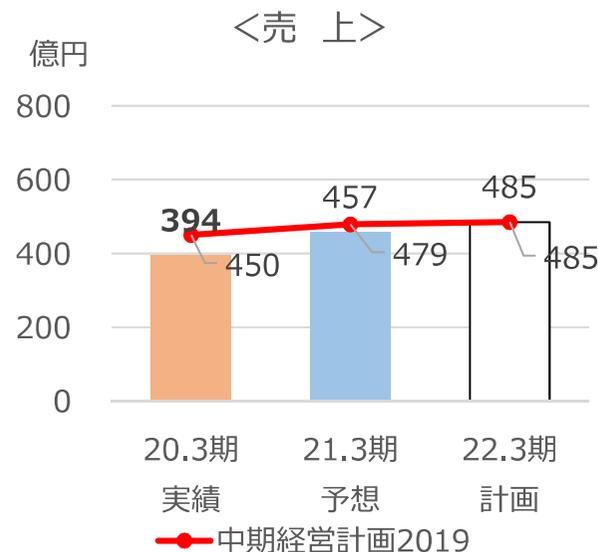
建築事業

事業方針

PC建築の拡大とエリア展開を進め、受注の強化と収益力の向上を目指す

進捗状況

- PC技術を核とした元請および設計施工案件の取組みを強化することで受注の拡大を図る
 - 営業、工事部門の組織を改編、PC・一般の組織を統合
 - 官庁案件への取組み強化、官庁積算システムを導入、運用を開始
- エリアごとのマーケットを見極め、要員を機動的にシフトすることで受注の強化を図る
 - 札幌支店を開設し、設計・工事部門の要員を拡充
 - 顧客情報の整備や営業情報システムの運用を開始、営業力の強化を進める
- 現場力を磨き、コスト競争力をあげて顧客満足度の向上を図る
 - 優良職長に対して報奨金制度を実施、現場作業員のモチベーション向上に寄与
 - 職長教育講習会を定期的実施し、協力会社との関係強化



事業別戦略の進捗状況

海外事業

事業方針

海外パートナーの新規開拓と既存パートナーとの連携強化により、海外事業の拡大を目指す

進捗状況

- 海外パートナーとの戦略的アライアンスにより営業網の拡大を図る
 - インドネシアでは、地元企業と共同し、新規案件に取り組む
 - ベトナムでの新たな提携先の洗い出しを行い、地元企業調査を実施
- ODA案件のPC橋梁をターゲットにアジア地域を中心に受注拡大を目指す
 - ミャンマーでジャイン・コーカレー橋建設事業に着手
 - 国内外でのJICA・コンサルタント等への当社技術を積極的アピール
- 建築分野の営業強化により、プレキャスト部材の受注を突破口として、建築事業への参入を図る
 - 建築案件の営業強化として建築要員を増員
 - インドネシアを拠点として東南アジア諸国への営業展開

- ミャンマーでの「東西経済回廊整備計画（パッケージ 1 ジャイン・コーカレー橋建設事業）」に着手



完成イメージ



起工式典

事業別戦略の進捗状況

技術開発

事業方針	成長分野の強化と新領域への挑戦により優位性を向上させる
進捗状況 今後の取組み	<ul style="list-style-type: none"> ■ 成長分野（大規模更新・PC建築・メンテナンス・海外）の技術開発を強化する — インドネシア道路技術研究所との共同研究に着手 ■ 生産性向上に向けた技術開発を推進 — グループ全体で横断的に情報化・機械化施工を融合進化させ、独自の建設システムを構築することを目的とした組織「PSMAX推進委員会」が始動 ■ 環境負荷低減に向けた技術開発を推進する — 低炭素コンクリートの開発「改質フライアッシュコンクリート」（FAC）の実用化へ目途

- インドネシア道路技術研究所（IRE）との共同研究に着手



調印式典



【PSMAX】とは

ピーエス三菱
Advanced
Construction
System

『**最大限**に進化した
ピーエス三菱グループの建設システム』
略して PSM-ACS

▶▶ 転じて **PSMAX**

事業別戦略の進捗状況

人財・組織

事業方針

経営基盤としての人財、情報技術、企業ブランドの強化を図り、活力ある企業集団を目指す

進捗状況

- 多様な人財が活躍できる抜本的な人事制度改革を実行する
 - 2020年度入社は、新卒36名、中途11名とそれぞれ目標を上回る
 - 障がい者雇用施設を開設し、6名雇用
 - 人事制度や運用面での課題を抽出・検証し、2021年度運用開始に向け検討を進める
- 働き方改革の推進等により職場環境の向上を目指す
 - 建設キャリアアップシステムの推進は、本社に推進委員会を設置しロードマップを策定し順調に推移
 - フレックスタイム制の内勤職への拡大、総労働時間管理の徹底により、土曜閉所や有給消化が促進、働き方への意識改革が進む

■ 障がい者雇用施設「ハートフル農園」の開設



■ 建設キャリアアップシステムの登録状況

項目	2019年度実績	目標
事業者登録	88.7%	2021.3月 100%
技能者登録	79.5% (一次下請)	2021.9月 90%
作業所登録 (土木)	100% (一部民間工事は除く)	2021.9月 90%
作業所登録 (建築)	100% (現行基準以上)	2021.9月 90%

事業別戦略の進捗状況

関係会社	
ピーエスケー (PSK)	<ul style="list-style-type: none">■ 架設機材リース業界で、中心的な役割を果たし、戦略性のある機材開発や新製品の開発を進める— 業界内での連携、協業を継続し、シェア確保を図る— 半断面床版取替工法架設機の改良やグループ製造工場の自動化計画に注力
ニューテック康和 (NTK)	<ul style="list-style-type: none">■ 補修分野での顧客ニーズを捉えた技術力・施工力の強化を図る— 豪雨災害の応急復旧対応で関東地方整備局より感謝状を授与— グループ会社間の工事案件協力などで技術交流を促進
ピー・エス・コンクリート (PSC)	<ul style="list-style-type: none">■ 設備投資の拡大と品質管理の徹底により、高効率の工場運営を行い、収益力を向上させる— 老朽化したクレーン設備やコンクリート養生管理システムを更新— 同業他社への積極的な営業を図るもグループ外受注比率は低調
菱建商事	<ul style="list-style-type: none">■ 今まで培ってきた経営資源を活かし、不動産投資によるストック事業を拡大していく— グループ会社間で情報交換を図り、物件の絞り込みを実施— 新型コロナウイルス感染症の拡大により、旅行部門の売上が前期末で大幅に減少
菱建基礎	<ul style="list-style-type: none">■ 同業他社とのアライアンス、M & Aを進め、基礎杭での事業領域を拡大する— 関西圏に営業所の開設を計画し、事業進出を図る— 基礎杭の事業領域の拡大に向け、パワーブレンダー工法用の機材購入予定

資本政策・経営指標

経営資源の最適化（有効活用）を目指す

資本政策

安定した財務基盤の確保を維持しつつ「成長分野の拡大」に向けた投資を実行する

営業利益率4.2%（最終年度）

生産性向上による収益の改善を目指す

ROE 9.0%以上（最終年度）

ROA 5.0%以上（最終年度）

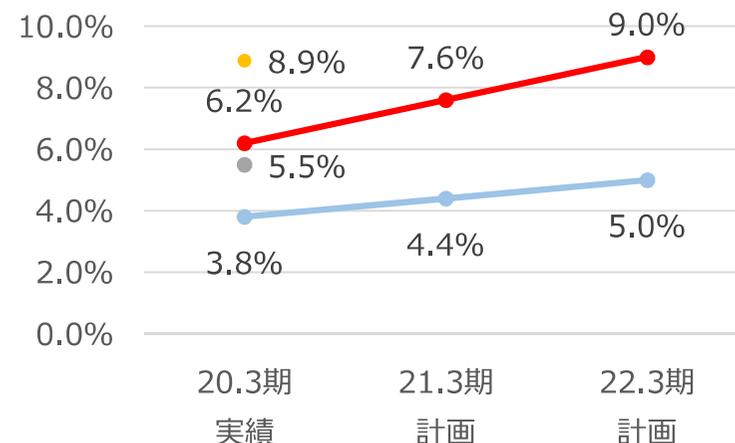
株主資本コストを上回るROEの実現を目指す

財務の健全性

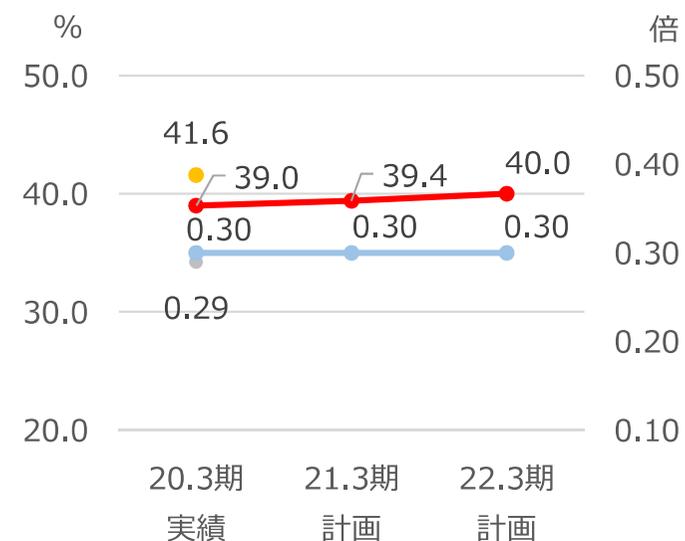
事業特性やリスクを踏まえ更なるい財務基盤の強化と自己資本の充実を目指す

自己資本比率40%以上

DEレシオ0.30倍以下



● ROE ● ROE計画 ● ROA ● ROA計画



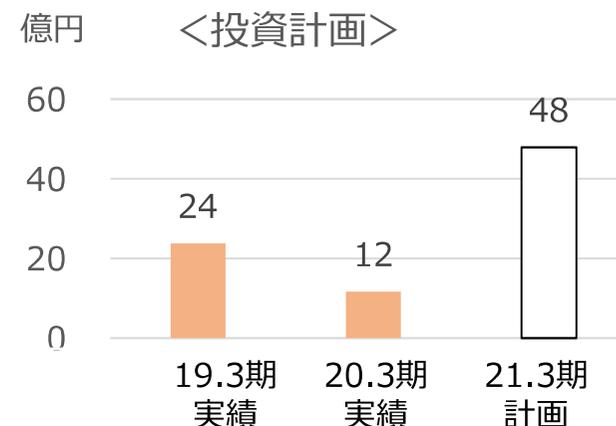
● 自己資本比率 ● 自己資本比率計画 ● DEレシオ ● DEレシオ計画

資本政策・経営指標

経営資源の最適化（有効活用）を目指す

投資

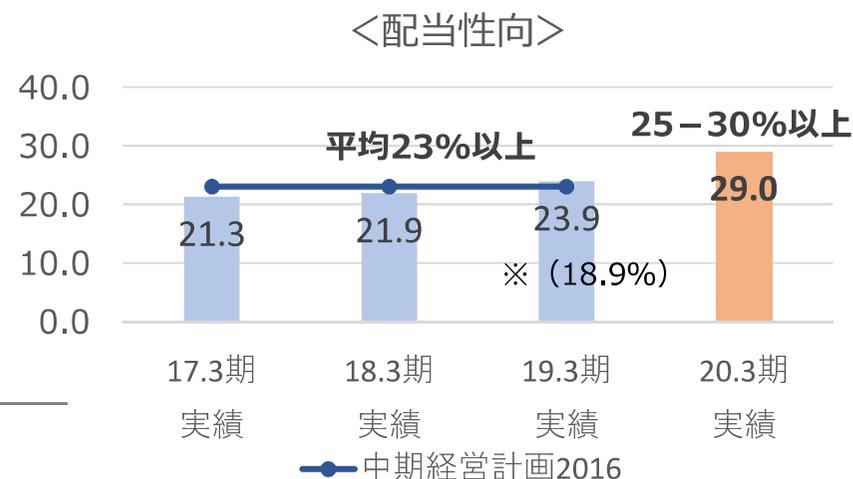
大規模更新事業等に向けた
 設備投資・不動産投資 70億円
 成長分野及び生産性向上への研究開発投資 20億円
 人財の確保及び育成のための人財投資 10億円
 その他 M&A等



	19.3期 実績	20.3期 実績	21.3期 計画
建物	18	4	29
構築物	1	0	5
機械装置	3	5	13
車両運搬具	1	1	-
工具器具備品他	1	2	1
合計	24	12	48

株主還元 配当性向

継続的かつ安定的な配当を実施する
 配当性向 25%~30%



総括

中期経営計画2019 1年目の振り返り

2020年3月期までの結果を見れば、全体として、中期経営計画2019の目標をほぼ達成しております。

特に利益に関しては、安定した利益を生み出せる体制になってきております。一方で、売上に関しては伸び悩みが見られます。今期については、潤沢な繰り越し工事量を確保しており、売上規模の拡大にも注力してまいります。

そのためにも、ICT、IoTを活用した生産性の向上を目指した取り組みであるPSMAXを前進させ、消化能力の拡大を図ってまいります。



代表取締役社長

森 拓也

Appendix. ご参考

会社概要・沿革

会社概要

名 称	株式会社ピーエス三菱
本 社	〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル3階 Tel (03)-6385-9111
設 立	昭和27年3月1日
資 本 金	42億1,850万円
上 場	東京証券取引所市場第1部
事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1.プレストレストコンクリート（PC）工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 2.土木一式工事、建築一式工事の請負ならびに企画、設計、施工監理 3.土木建築構造物の維持、補修に関する事業 4.プレストレストコンクリート（PC）製品およびプレキャスト・コンクリート製品の製造、販売ならびにそれらの製造用具および附属資材部品の製作、販売 5.プレストレストコンクリート（PC）工事用機械器具その他建設用機械器具の設計、製作、販売および賃貸 6.鉱物の採掘およびその請負 7.不動産の売買、賃貸およびそれらの仲介ならびに所有管理 8.運送業および倉庫業 9.損害保険代理業および生命保険の募集に関する業務ならびに自動車損害賠償保障法に基づく保険代理業 10.前各号に関連ある一切の業務

沿革

	(株)ピー・エス	三菱建設(株)
1952	東日本重工業（現 三菱重工業(株)）七尾造船所の諸施設及び 従業員を引き継ぎピー・エス・コンクリート(株)を設立	
1960		三菱鉱業(株)ほか三菱系列企業10社が発起人となり、新菱建設(株)設立
1969		三菱建設(株)に社名変更
1989	インドネシアにて合併会社 PT.Komponindo Betonjaya（略称：PT.KOBE）社設立	
1991	(株)ピー・エスに社名変更	
2002	合併により(株)ピーエス三菱発足	
2004	ベトナムにて VINA-PSMC Precast Concrete Co., Ltd .設立	
2012	インドネシアにてPT. Wijaya Karya Komponen Beton社設立	



長生橋（石川県七尾市）

1952年に完成したわが国初のプレストレストコンクリート橋。2001年に河川改修に伴って撤去され、一部が希望の丘公園に歩道橋として保管されている。海岸線近くの立地条件にありながら、撤去時の調査において、驚異的な耐久性が確認された。

グループネットワーク

ピーエス三菱グループ（主要国内5社）



- 支店
- ・東京土木支店
 - ・東京建築支店
 - ・札幌支店
 - ・東北支店
 - ・大阪支店
 - ・名古屋支店
 - ・広島支店
 - ・九州支店
- 営業所
- ・29箇所

株式会社ピーエスケー



PC工事における機材の企画・設計・製作・賃貸・販売、資材の製造・販売およびこれらの運用・活用に関するエンジニアリング

株式会社ニューテック康和



道路・鉄道・港湾等の構造物のメンテナンス、リニューアル

ピー・エス・コンクリート株式会社



PC製品の製造販売

菱建商事株式会社



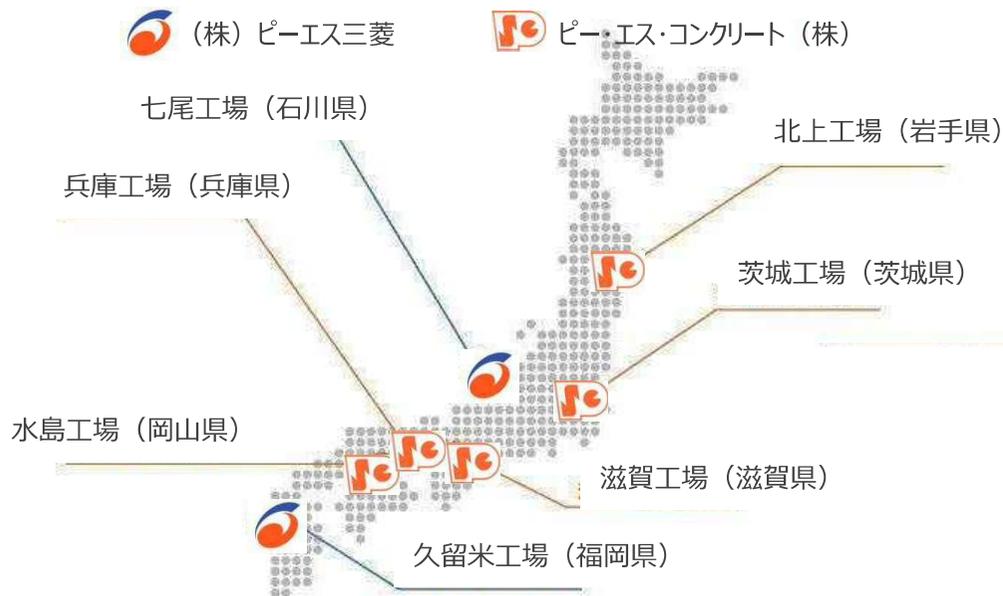
建築資材販売、物流、不動産関連など

菱建基礎株式会社



土木・建築構造物の基礎工事など地下分野の総合専門工事

国内工場ネットワーク



海外ネットワーク



事業構成

建築建設事業

【強み】

- プレキャスト（PCa）工法により高品質・高強度の部材を安定的に供給が可能
- 独創的なPC建築から一般建築まで優れた企画提案力で幅広い顧客基盤を持つ
- 三菱グループの唯一のゼネコンとして、高度な技術力により様々なニーズに対応した構築物を提供

- PC工事その他一般建築工事の請負
- PC製品の製造販売

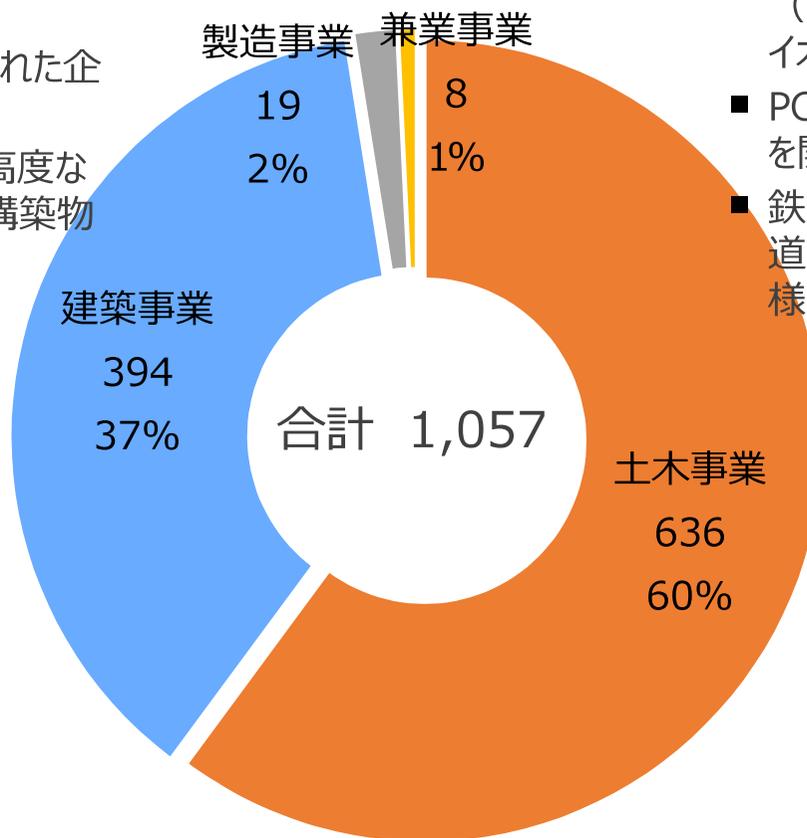


五十嵐電機製作所 新本社ビル

製造事業

- コンクリート製品の製造販売

セグメント別売上高



セグメント別売上高・構成比率
(2020.3月期 単位：億円)

土木建設事業

【強み】

- 日本におけるプレストレストコンクリート（PC）の実用化に初めて成功し、PCのパイオニアとして、多くの橋梁施工実績
- PC業界のトップランナーとして、多くの技術を開発し、国土基盤の整備に貢献
- 鉄道・空港・港湾・橋梁下部工・上下水道・発電所・防災などPC橋梁のみならず、様々な土木全般の事業を展開

- PC工事その他一般土木工事の請負
- PC製品の製造販売



新名神高速道路菰野第二高架橋他3橋
(PC上部工) 工事

令和元年度
土木学会
田中賞受賞

その他兼業事業

- 不動産の販売・賃貸・仲介
- 損害保険代理店事業

プレストレストコンクリート（PC）技術とプレキャスト（PCa）技術とは

プレストレストコンクリート（PC）とは

PCは「あらかじめ（プレ）応力（ストレス）を与えられたコンクリート」のことです

- コンクリートの最大の弱点(引張には弱い)を克服することができます
- 圧縮する力を与えることで、大きな引っ張る力が作用してもひび割れを制御することができます
- 上記により、柱や梁を細くしたり空間の距離を大きく取ることができます



プレキャスト（PCa）とは

高強度のコンクリートを使用し、あらかじめ工場で製作したコンクリート部材です

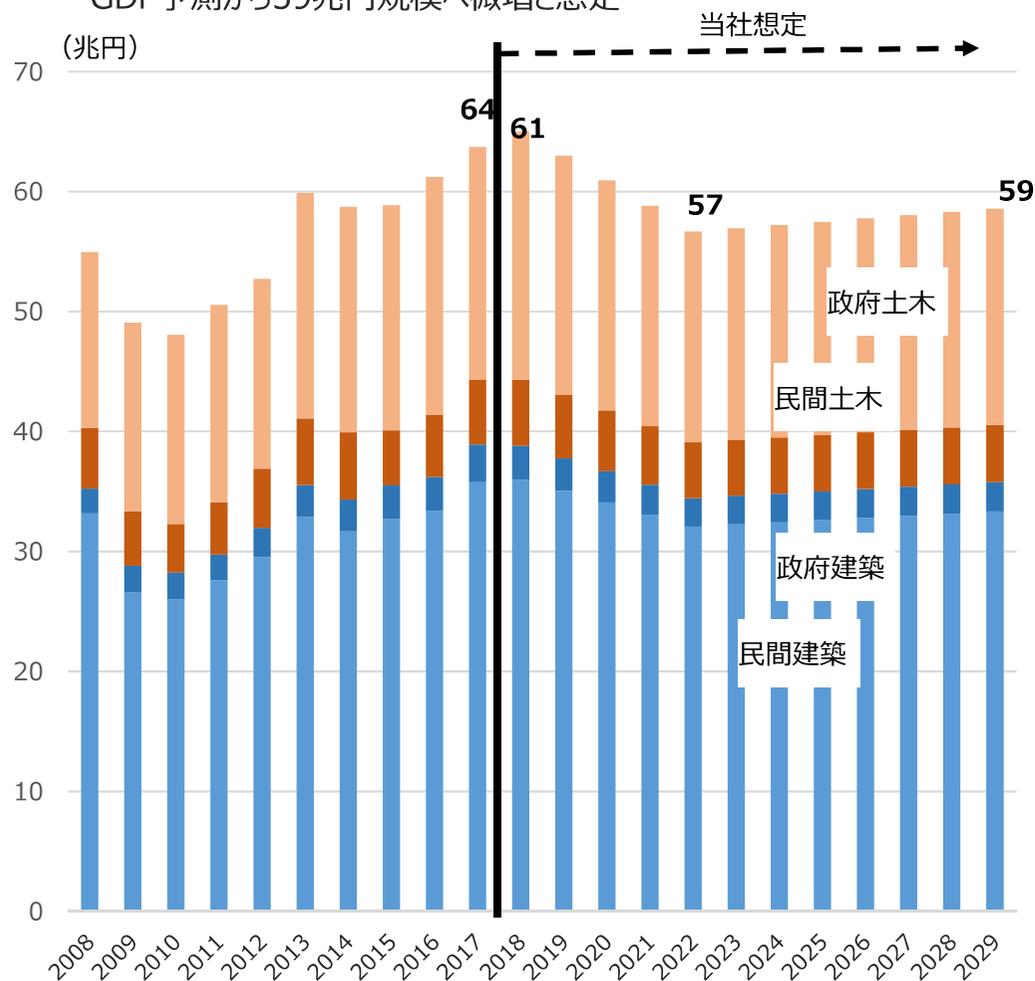
- 工場で生産されるので、高品質・高精度で、高耐久を有しております
- 現場で型枠を組み施工した場合より周辺環境に優しい工法です
- 工場で部材を製作する為、現場作業の省力化・スピード化が図れます



今後の事業環境の見通し

建設市場の推移（中期経営計画2019策定時）

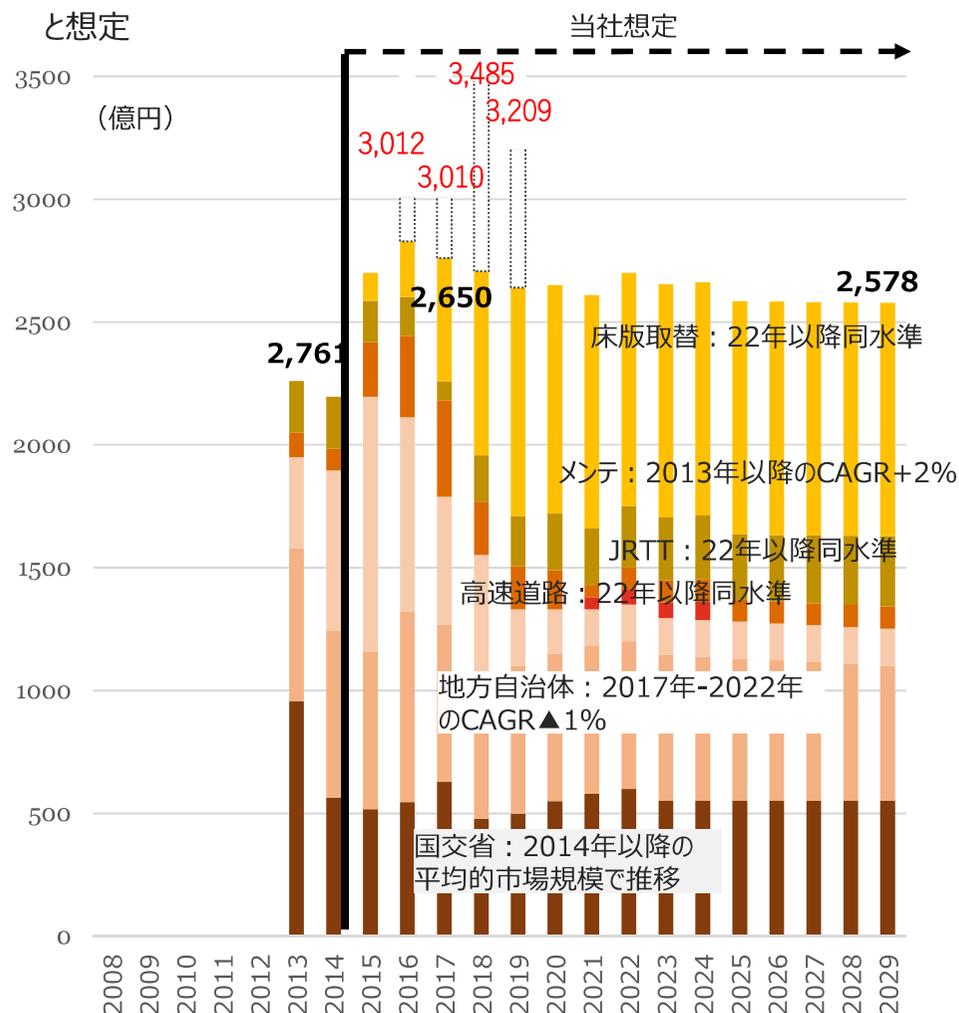
- 建設市場全体（土木・建築）では、2022年に57兆円に減少し、GDP予測から59兆円規模へ微増と想定



※「GDP予測」×「建設投資/GDP比率の予測」から建設投資額を試算。建設投資額は「民間建築の維持修繕市場」を含んでいないため、当該金額を加算したものを「建設市場」とした

PC土木市場の推移（中期経営計画2019策定時）

- PC土木市場は、新設橋梁の減少とともに維持・補修事業が本格化と想定



※赤字はPC建協発表のPC市場の実績値（建築含む）



将来予測に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業績等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、安全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。このため、実際の結果と大きく異なったり、予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめ御了承ください。

IRに関するお問い合わせ先

株式会社ピーエス三菱 管理本部 総務部 広報・IRグループ
〒104-8215 東京都中央区晴海二丁目5番24号 晴海センタービル
TEL : 03-6385-8002 FAX : 03-3536-6927 メールアドレス : koho.ir@psmic.co.jp